

市場における獣医療検査情報の公開 — 球節の異常所見と競馬成績 —

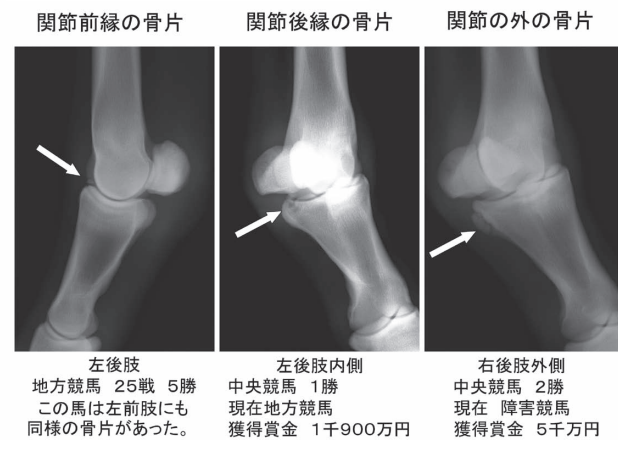
球節の異常所見にも、他の関節と同様、骨片、骨軟骨症、骨嚢胞、粗造像、透亮像、変形等があります。

関節内の骨片としては、第一指骨近位には前縁にも、後縁にも、小さな骨片が見られることがあります。窪んだ中に骨片のあるものや、骨片だけが離れている例など様々で、離断性骨軟骨症(OCD)であるとか、引きちぎられた骨折片であるとか議論されています。前肢、後肢ともに、前縁にも後縁にも見られましたが、前肢の後縁には稀にしか見られませんでした(前肢：前縁34件 後縁6件 後肢：前縁33件 後縁51件)。

また後縁に見られるのは、後縁の内側か外側に見られるのですが、多くは内側に見られました。運動力学的には、前肢・後肢で、あるいは内側・外側で多少異なったストレスが加わり、このような発生の差があるのかも知れません。

関節内の骨片ばかりでなく、第一指骨近位後側面では、まさしく引きちぎったような骨折もありました。

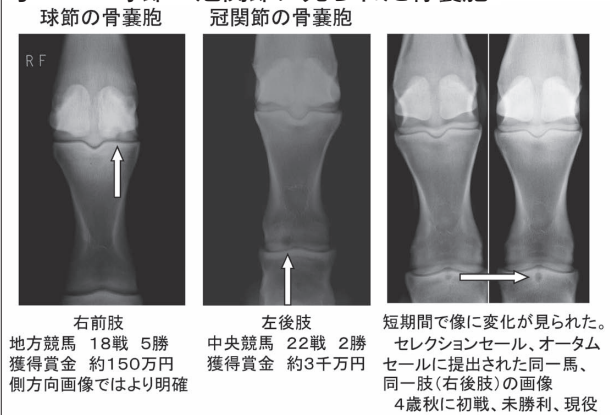
写一 球節に見られた骨片



骨嚢胞(軟骨下骨嚢胞)は、球節では前肢でしか見つかりませんが(前肢：5件 後肢：0件)、中手骨関節面にある例も、第一指骨関節面にある例もありました。一方、冠関節(第一・第二指骨関節)では、後肢のほうが多く見られました。(前肢：3件 後肢：17件)

冠関節の画像については、調査対象とした画像の撮影された頃は、枠内に納まっていない画像も多く、実際にはもっと多く見つかるかもしれません。

写二 球節・冠関節に見られた骨嚢胞



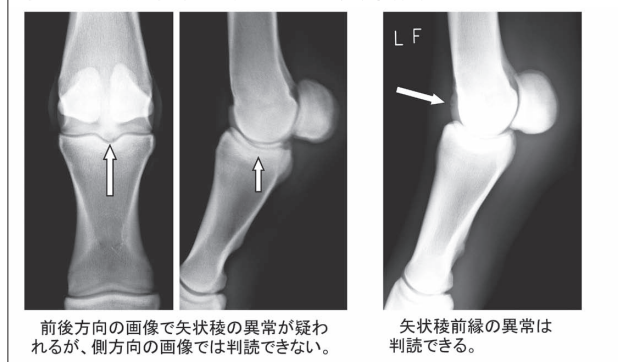
球節に関する異常所見として、矢状稜に関する異常所見の調査が海外では報告されています。海外では、レントゲンの撮影方法が異なるので、矢状稜の詳細な判読ができるのでしょうか。

写三 米国での球節・矢状稜の撮影方法



球節は運動時に大きく動く関節でありながら、1方向へしか動かなくてよい関節です。そのため、鉄道のレールのようなこのような構造が必要なのでしょう。この構造に難があれば、捻じれや、他の方向からの力が加わった時に、問題になりはしないか、と考えられます。それでより詳細なチェックが必要と考えたのでしょうか。

写四 矢状稜に見られた異常所見



ところが、海外の調査結果でも、他の部位の異常と同様に、獲得賞金や、勝率などを統計的に解析し議論されましたが、矢状稜に異常の有無が、競走馬になれるかどうかを決定するものではありませんでした。